

栗原市



一迫町鹿踊

栗原市一迫の鹿踊は約 400 年の伝統を持つ民俗芸能です。8人1組で踊ることからハツ鹿とも呼ばれています。木彫りの鹿頭に鹿の角、長さ 3.6m のささらを腰に差し、鹿の姿を真似て踊ります。鹿踊は獅子躍、鹿子躍とも書き、その起源にはシカの供養説やシカの動きを真似た遊戯模倣説などがあり、他にも各地に様々な伝承が残っています。宮城県北部から岩手県南部における鹿踊は、太鼓を身に付け、自ら打ちながら踊る「太鼓踊系」と呼ばれています。



江戸時代には、藩主伊達政宗がこの踊りを愛好し、毎年仙台城で踊るようにと「行参」の文字と伊達家の紋のひとつである「九曜の星」を授けたと言われており、また仙台藩一門の白河家（一迫真坂）の御抱え鹿（特別に保護された鹿踊）として保護育成されてきました。

昭和 46 年、真坂鹿踊と清水目鹿踊の 2 団体が「一迫町鹿踊」の名称で宮城県無形民俗文化財に指定されました。